



吉野川他研究G



富士川研究G



長良川研究G

千曲川・
信濃川研究G

筑後川研究G

総合研究G
(かく乱チーム)

第27回

河川生態学術研究発表会

令和7年11月13日(木)

10:30~18:00

ハイブリッド形式にて開催予定

- ・会場【東京証券会館 8階】：定員300名
- ・WEB：定員500名

参加
無料CPD認定
5.9単位(会場)
4.9単位(WEB)

※土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は提出先団体に事前にご確認ください。他団体が運営するCPD制度に関する内容については回答いたし兼ねます

河川生態学術研究会は、生態学と河川工学の研究者が共同し、河川における生態系の解明とその上に立った河川管理について研究、議論するとともに、次世代を担う研究者を育成することを目的としています。

現在、個別の河川を研究フィールドとした5つの河川別研究グループ(吉野川他、富士川、長良川、千曲川・信濃川、筑後川)、若手を主体とした横断的なテーマで研究を進める2つの総合研究グループ(かく乱チーム、生態系ネットワークチーム)が活動しています。

この度、応用生態工学会との共催により、5つの河川別研究グループと総合研究グループ(かく乱チーム)が一同に会して研究成果を発表し、河川生態の最新の知見を共有するとともに、幅広い意見交換を行う場として研究発表会を開催いたします。

この研究発表会が、河川生態の研究およびその活用の充実、発展の機会となるよう、研究者、現場技術者、NPOなど、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

※WEB参加の場合、ポスターセッションは参加できません。



プログラム

(敬称略)

10:30 開会挨拶 河川生態学術研究会委員会 委員長 中村 太士

10:40 研究グループの研究発表(口頭発表)

- ・研究発表《吉野川他研究G 代表 鎌田 磨人》
- ・研究発表《富士川研究G 代表 大槻 順朗》
- ・研究発表《長良川研究G 代表 萱場 祐一》
- ・研究発表《千曲川・信濃川研究G 代表 箱山 洋》
- ・研究発表《筑後川研究G 代表 鬼倉 徳雄》
- ・研究発表《総合研究G かく乱チーム 代表 三宅 洋》

12:50~13:50 昼食

13:50 ポスターセッション(裏面参照)

15:00 総合討議 コーディネーター：千曲川・信濃川研究G 代表 箱山 洋 パネリスト：千曲川・信濃川研究グループ

15:45 話題セッション：これからの河川生態学術研究～河川生態の魅力を探る～

<コーディネーター> 萱場 祐一(名古屋工業大学教授)

<パネリスト> 鬼倉 徳雄(九州大学大学院教授)、戸田 祐嗣(名古屋大学大学院教授)、
皆川 朋子(熊本大学大学院教授)、三宅 洋(愛媛大学大学院教授)、
森 照貴(土木研究所自然共生研究センター長)、宇野 裕美(東北大学大学院准教授)

17:45 閉会挨拶 応用生態工学会 会長 清水 義彦
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課主催 河川生態学術研究会
(公財)リバーフロント研究所

共催 応用生態工学会

10：40～12：50 研究グループの研究発表	
吉野川他研究グループ / 代表 鎌田 磨人 ・吉野川支川・飯尾川における流域治水システム	10:40～11:00 鎌田 磨人
富士川研究グループ / 代表 大槻 順朗 ・多様な扇状地河川を有する富士川流域における治水と環境を両立する流域治水策の検討に向けた研究	11:00～11:20 大槻 順朗
長良川研究グループ / 代表 萱場 祐一 ・河川における陸域環境をどう捉えるか？ー長良川大縄場大橋下流砂州における群落クラスタの構築ー	11:20～11:40 萱場 祐一
千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋 ・河川における生息地連続性の重要性ー河川生態系への影響評価および保全方策ー	11:40～12:00 箱山 洋
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄 ・大規模攪乱後の生態系回復・その後の災害復旧の影響	12:00～12:25 鬼倉 徳雄
総合研究グループ（かく乱チーム） / 代表 三宅 洋 ・出水攪乱に対する生物応答の事例集積と攪乱外力評価手法の適用・開発	12:25～12:50 三宅 洋
13：50～14：50 ポスターセッション	
富士川研究グループ / 代表 大槻 順朗 ・多様な扇状地河川を有する富士川流域における治水と環境を両立する流域治水策の検討に向けた研究 ・富士川水系の扇状地河川における河道植生繁茂の進行過程の分析ー河川特性に応じたきめ細かな掘削管理手法の構築に向けてー ・甲府盆地を流下する多様な支流域における底生動物の群集構造	大槻 順朗 指村 奈穂子 八重樫 咲子
長良川研究グループ / 代表 萱場 祐一 ・長良川研究グループの研究の枠組みー流域治水と河道掘削にフォーカスしてー ・河道掘削に対する陸域環境の応答予測に向けた植生動態モデルの構築 ・景観および生物に基づく指標を用いた流域環境の評価：流域治水メニューとの関係	萱場 祐一 戸田 祐嗣 森 照貴
千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋 ・河川における生息地連続性の重要性ー河川生態系への影響評価および保全方策ー	箱山 洋
・信濃川の魚類多様性と環境の関係：生息地連続性の理解に向けて	児玉 紗希江・児玉 建・Leanne Faulks・Alessandra Cera・箱山 洋
・River fragmentation at the local scale: effects on biodiversity	Leanne Faulks・Alessandra Cera・児玉 紗希江・箱山 洋
・Spatial and temporal variations of community-level profile of epilithic biofilm for assessing disturbances	Alessandra Cera
・千曲川中流域におけるダムと水質・微生物・魚類相の関係	児玉 建・小原 瑞月・花岡 良信・羽田 皇喜・児玉 紗希江・Leanne Faulks・箱山 洋
・Estimating Fish Density from Downstream eDNA Reads in an Experimental Waterway	小原 瑞月・児玉 建・箱山 洋
・横断測量データと航空写真からみた千曲川・信濃川中流域における河道変遷	岩井 楓花・井土 貴斗・豊田 政史
・魚類の移動モニタリング技術の開発	飯尾 昭一郎
・環境DNAによる種特異的解析手法を用いたブラウントラウトの分布調査	龍野 紘明・田代 誠也 龍野 紘明・新海 孝昌・田代 誠也・傳田 郁夫・山本 聡
・台風による攪乱が魚類個体群動態に与える影響	児玉 建・児玉紗希江・Leanne Faulks・豊田 政史・箱山 洋
・ダム位置情報を加えた国交省河川データ統合による魚類相ー環境関係の解析	加藤 駿・Leanne Faulks・大西 雄二・高橋 真司・宇野 裕美
・アユが河川生態系に及ぼす影響について	
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄 ・筑後川研究グループ全体概要 ・巨瀬川における横断面形状の違いが魚類相分布に与える影響ー環境定量目標化に資するB/H指標の提案ー ・流域横断河川の有する魚類生息場特性	鬼倉 徳雄 福田 圭希 山崎 庸平
総合研究グループ（かく乱チーム） / 代表 三宅 洋 ・出水攪乱に対する生物応答の事例集積と攪乱外力評価手法の適用・開発 ・洪水かく乱への間隙域無脊椎動物群集の応答 ・出水前後の砂州内河床間隙動物群集の変化：環境DNAメタバーコーディングによる洞察 ・サケ科魚類個体数の年次変動に対する水温・流量の影響：北海道・後志利別川の事例 ・大河川における淡水魚類群集の季節変化と洪水の影響 ・大規模出水に対する底生動物・魚類群集の応答：愛媛県河川の事例 ・河川砂礫堆上の植物群落の生活史戦略性と立地環境：高知県仁淀川・物部川の事例 ・流出解析に基づいた異なる気候帯に及ぶ流域内の出水かく乱評価 ・河道内水域の掃流力の空間分布と小区間平均した掃流力の簡易表現	三宅 洋 根岸 淳二郎 渡辺 幸三 石山 信雄 森 照貴 三宅 洋 比嘉 基紀 糠澤 桂・井上 優希 原田守啓

参加申し込み

下記URLまたはQRコードにより、お申込み下さい。

- WEB参加（ZOOM）
https://e-ve.event-form.jp/event/114964/27th_kasenseitai_Web
- 会場参加
https://e-ve.event-form.jp/event/114961/27th_kasenseitai_kaiyou



河川生態学術研究会の詳細はこちらをご覧ください。
「河川生態学術研究会パンフレット第21版」
https://www.rfc.or.jp/seitai/seitai_pamph_21.pdf

※上記フォームでお申込できない場合は事務局宛にメールでお問い合わせ下さい。

申込締切 11/10迄
※定員に達した時点で申し込みを締め切ります。